



# 鹿児島大学教育学部 同窓会会報

第16号

平成26年11月20日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065

鹿児島市郡元1-20-6

電話099-285-7718

編集・印刷

濱島印刷(株)

## 第17回同窓会総会 || 新会長に石神正明氏 ||

平成26年度第17回教育学部同窓会総会・懇親会は8月3日ジェイドガーデンパレスに於いて盛大に開催された。池之迫静男会長のあいさつ来賓として新教育学部長の土田理教授、県教育次長の原之園哲哉氏の話で幕を開けた。その後、議事は鮫島寛行議長の進行で進められた。事業報告は特筆する事項が多かった。

①同窓会費納入奨励月間を設け、同窓会費が「どのように使われているか」を明記したところ抛出が向上したという会計報告であった。  
②3月「教育学部沿革之碑」が建立検討委員会の努力で実現した。  
③11月「鹿児島島の教育を語る会」と懇親会が開催された。講師に同窓会会員の山崎美智子氏にご講演をいただいた。

④「懇親会」の世話役の当番となる本年度の48年卒、前年度の47年卒、来年度の49年卒の引き継ぎ会が出来た。  
⑤教育学部卒業生全員に「祝詞」を贈呈できた。  
役員改選があり、平成19年から会長を務められた池之迫静男氏の辞意の表明を受け、選考委員会で新会長に石神正明氏、副会長に東寛治氏が選出され、総会で承認された。幹事の竹之内則好氏も退任された。長い間同窓会にご貢献いただき感謝している。午後は48年卒生の世話によ



### ご挨拶

鹿大教育学部同窓会長 石神 正明

皆様方にお世話になり、厚くお礼申し上げます。これからは皆様方のご支援・ご指導・ご協力をいただきながら、本同窓会のあるべき姿を見据えて努力してまいりたいと思っております。どうかよろしくお願致します。これまでの松元兼俊前々

しい路線でありました。そこでは、会員への本同窓会活動の周知・理解・会員相互の連携のために、会報の発行、会員の名簿作成、更には懇親会も平成20年11月の同窓会設立10周年記念大会で行い、その後は「鹿児島師範・鹿児島大学教育学部同窓会」の解散に伴い、本同窓会の懇親会

も担当学年会員が世話役となつて毎年総会後に行つていきます。これらによつて会員相互の絆も深められています。また、同窓会の組織の整備と活動の充実のために、各学年代表世話役の増員、三専門部(総務・研修・広報)の設置等による諸活動の充実も図られてきています。更には、母校後輩の一層の飛躍を願つて、後継者育成事業として「鹿児島島の教育を語る会」が平成14年から毎年行われていきます。在学生と卒業生、学部の方と共にご当面するテーマについて提言、協議をし、その後は出席者で懇親会も行って、在学生との交流のよき場になっていきます。今、大学もグローバル化の時代を迎えて国際化にも力を入れており、本同窓会では、

る「懇親会」が川孝子氏の司会で賑々しく開催された。48年卒生は30名の出席であった。小中高の連携が図れた意義ある会になったということである。出席者は総会が99名、懇親会が111名であった。来年はもっと多くの方々にお会いしたい！語りたいたい！と希望する。

教育学部同窓会は、平成10年に発足して、ここに創立16周年を迎える。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875(明治8)年に始まり、139年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で、本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を擁する同窓会であること確信する。本会は、会員相互の親睦、母校である鹿児島大学および本学部の発展と本県教育の振興を図ることを目的として、同窓会の活動は今日的課題をとりえ推進してきている。今後は、組織の拡充・活性化に努め、在学生への支援

はもとより、県下各地域の教育力の涵養にも努めると同時に、人材活用事業では会員の積極的な取り組みの活性化を図る。また、会員の豊かな知識や貴重な体験をもとに、各地域の新しい教育的・文化的な風土づくりの活動を通して、本会活動の飛躍の年として、以下の活動を推進する。  
1 組織の充実のために、各役員  
の積極的な参加を推進する。  
2 学年会員同士の絆を強める  
ために、学年ごとの同窓会の  
充実を図り、さらに県外在住  
同窓生の組織化のあり方を検  
討する。  
3 会の運営を充実するために  
発足した三専門部(総務、研修  
広報)の活動の組織化と年間  
の活動のあり方を検討し、専  
門部活動の活性化を図る。  
4 在学生への諸活動支援のあ  
り方を検討し、卒業後の進路  
が多岐にわたることを考慮し

た支援活動も検討する。  
5 「鹿児島島の教育を語る会」活  
動について、在学生と既卒会  
員の理解と参加のあり方を検  
討し、参加者を増やす。  
6 鹿児島大学教育学部が行う  
国際交流活動や大学祭等への  
支援事業をさらに充実して、  
在学生への支援に努める。  
7 各地域在住の同窓生がそれ  
ぞれの地域の要請に応じて、  
児童・生徒の諸指導、PTA  
活動や公民館活動等へのボラ  
ンティア活動を推進するため  
に、「人材活用事業」の周知を  
図り、会員の参加に努める。  
8 会則15条に「会員は、終身会  
員として、10,000円納  
付しなければならぬ」と定  
めてある。会費納入奨励月間  
を設けて、未納会員への会費  
納入の周知に努める。  
9 同窓会事務局本部の事務局  
体制の確立に努める。

会長、池之迫静男前会長の路線は、本同窓会設立のための談話会から準備委員会・発起人会を経て平成10年1月の設立へとかかわつてこられたものであります。まさに本同窓会の目的である会員相互の親睦と母校の発展と教育の振興を踏まえての具体策策定と、その実践と積み上げの素晴ら

教育学部による国際交流活動を支援するために「国際交流基金」を設置して財政面での支援を行っており、在学生や学部の国際交流協定大学との交流活動も行われています。この他、本同窓会は、教育文化についての豊かな知的人材を有する会としての特性を活かして「人材活用事業」にも取り組み、県下各地の教育文化の振興・発展に寄与することにも力を注いでいます。平成17年には、鹿児島大学同窓会連合会の発足に伴い、他学部同窓会とも連携した学内一体の活動も行っています。また、池之迫前会長が最後に大きな事業とされた「絆 鹿児島大学教育学部沿革之碑」の建立も実現されました。これまで築きあげられた路線を引き継ぎ、同窓生の縦横

の絆を更に深めると共に、母校への想いと誇りを胸に、母校や郷土の発展充実にもこれからは資することができればと念じています。未来を切り拓くために今後の課題をとりえ、一步一步皆様方と共に進んでまいりたいと存じます。

平成26年度事業計画  
平成26年4月11日(金) 会長・副会長会議  
4月18日(金) 専門部長会議  
4月26日(土) 総務部と48年卒世話係代表との連絡会  
5月27日(火) 会長・副会長会議  
6月 同窓会費納入奨励月間  
6月12日(水) 会報「沿革之碑建立特集号」発行  
6月12日(水) 会長・副会長会議  
6月20日(金) 事務局と48年卒世話係代表との連絡会議

6月30日(月) 会計監査  
7月2日(水) 役員会・理事会(年間事業計画・総会・懇親会関係)  
7月15日(火) 会長・副会長選考委員会  
7月22日(火) 会長・副会長会議  
8月3日(日) 臨時役員会・理事会、26年度総会、懇親会  
8月 会長・副会長会議  
9月 研修部会議  
9月 広報部会(会報16号企画会議)  
9月 会長・副会長・専門部長会議  
9月 総務部会(総会・懇親会総括会議)

11月28日(金) 「鹿児島島の教育を語る会」懇親交流会  
12月 平成27年度学部推薦I入学予定者へ同窓会案内発送  
12月 平成27年度学部入学の同窓会費未納学生への納入依頼  
平成27年1月 会長・副会長会・専門部長会議  
2月 総務部と48・49・50年卒の3学年代表者連絡  
2月 平成27年度学部推薦II入学予定者へ同窓会案内発送  
3月 昭和53年卒業生へ会費納入願ひ発送  
3月 平成27年度学部前期合格者への同窓会案内発送  
3月 平成27年度学部後期合格者への同窓会案内発送  
3月 会長・副会長会議  
3月 総務部と学年代表者会議  
3月 「会長メッセージ」卒業生へ配付



### 同窓会会長辞任のご挨拶

—ここに遥けくもあるかたぐれて  
なほ光ある遠山の雪 (島木赤彦) —

鹿大教育学部同窓会前会長 池之迫 静男

このたび第17回同窓会総会をもって、私は同窓会会長を辞任することにいたしました。

これまで学部の諸先生方をはじめ会員の皆様のあたたかいご支援を、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

顧みますと同窓会創立以来、初代松元兼俊会長のもとを引き継ぎ、副会長10年、会長7年という、まことに長年の任務でありました。今になり、この長年を悔いながらも感謝の念でいっぱいでありま

す。この長年の任務を事無く果たしたことは、まず、同窓会活動はボランティアな活動であること、そして活動に対する会員からの苦情がほとんど寄せられず、心を痛めるような事態に遭遇することもなく(このことは問題)その上に、私自身が楽天的な性格分であることから長年の任務を続けられたものと、やや不遜な思いを、会員の皆様に披瀝いたすところであります。

同窓会活動は、これまでも申し上げてきましたように、教育学部同窓会らしい活動をめざし、初代松元会長の「自分の土で咲こう」をモットーにして、活動を推進してきました。その一つが「鹿児島教育を語る会」であり、その二は、学部や後継者育成をめざした在学生のための「国際交流基金」の設置、その三は、卒業生のボランティア活動としての「人材(派遣)活動事業」であり、その四は、同窓会創立15周年記念事業「鹿児島大学教育学部沿革之碑」の建立により、母校への正しい認識と同窓生の絆を深めるよすが



### これからの教員養成について

鹿児島大学教育学部長 土田 理

平成24年4月から教育学部長を拝命しております。鹿児島大学教育学部同窓会の石神会長はじめ、同窓会役員、同窓会構成員の諸先輩方からは、日頃より多くのご支援・ご指導を本学部に頂いておりますこと、教育学部を代表して心から感謝を申し上げます。

現在、全国の国立大学法人の教員養成系は、これまでになく厳しい状況下にあります。高等学校の卒業生人口減少による入学生母集団の縮小、そして社会や家庭の変化にもなう新しい教育課題の出現、さらに少子化による小学

校・中学校・高等学校の統廃合などは、マスメディアに特集として取り上げられることも多くなっている喫緊の課題です。そしてこれらの課題には、大学や学部で改善のための対応策を取ることが可能な事と、対応策を取ることが困難な事が入り交じっています。例えば、入学生母集団の縮小に底を置く大学入学者の基礎学力低下層の課題は、地方国立大学の教員養成系のみならず、多くの学部が直面している課題です。そのため、理工学系ではリメディアル教育(大学講義についていける

だけの学力や知識を助ける教育)を行ってある事例が多くあり、教員養成系で行う場合の先行事例として参照することが可能です。しかし、基礎学力低下層の存在は、入学倍率低下だけではなく、高等学校までの生活経験、学習形態、目標設定、さらに家庭環境、地域環境など、大学や学部が対応策を講じにくい事柄にその発端があります。その中で、文部科学省は全国の国立大学法人の教員養成系における学生定員を減らすことと教員養成系の初等教員養成特化を進めています。入学倍率の低下や、教員採用試験受験者数の



### 同窓会世話役として

鹿児島女子短期大学附属すみれ幼稚園長 昭和49年卒 上林房 一正

平成24年3月31日午後5時、正門で38年間の学校勤務とお別れして、4月1日から鹿児島市の皇徳寺台にある鹿児島女子短期大学附属すみれ幼稚園に勤務し、今年3年目を迎えた。仕事は、学校の校長先生や教頭先生の仕事、PTA担当の先生の仕事、事務職員や環境整備等、つまり幼稚園の先生方が仕事をしやすいように環境を整える役割である。

学校にいた時と全く同じような時間で勤務し、仕事の内容や量ともに現職の時よりハードになっていると感じているため、退職したという実感がわかない。「人生は平均」という言葉を以前先輩におそわったことがある。人が一生の中でする仕事は平均してみると人によって変わらないうことだそうだが、私の場合も、学校に勤務していると経験できなかった仕事を、全てしている。まさに「人生は平均」である。今幼稚園では、稲刈り、芋ほり、どんぐり拾い、みかん狩り、運動会などの行事が終った。季節はいつの間にか秋色へと変化しつつある。子ども達も運動会の後、一段と友達と誘い合って遊ぶ姿がたくさん見られるようになり、悔しさや嬉しさなどいろいろな感情を経験しながら、この小さな子どもたちの世界にも成長の深みが増してきているように思う。このような子ども達の姿に触れ、私の心も癒やされている。

### 同窓会を顧みて

錦江町教育委員会 昭和48年卒 長浜 真一



教職を定年退職してから一年が経ったところ、同窓会の学年代表世話係の相談があり、私でよければと軽い気持ちで引き受けた。そして第15回同窓会に初めて参加し、2年後の第17回同窓会では我々48年卒が幹事の年であることを知った。

その後、「鹿児島の教育を語る会」や「3学年学年代表者会」等にも参加し、教育学部同窓会の組織や様々な事業、また同窓会を運営される幹事の方々の底力をも見せていただいた。そして、いよいよ自分たちの年になったとき、私事ではあるが、遠方で仕事をすることになり、同窓会のお手伝いすら全くできないまま、今年のはただ同窓会に出席することしかできなかったことが残念でならない。しかしながら、多くの同窓生が例年同様、力を合わせ素晴らしい運営をしていただき、ただただ感謝するのみであった。

さて、来年の同窓会は昭和49年卒業生が世話役を任せられた。私自身これまでこの会への出席を失礼していたためよく理解できていない面もあり、今回良い機会をいただいたので、諸先輩達の助言を仰ぎながら、会が成功するよう努力していきたい。加えて一先輩として微力ではあるが、教職の道を目指して学んでいる教育学部生の応援団として支えることができたかと思っている。

め、多くの同窓生や先輩方と近況を語ることもでき大変有意義な会であった。同窓会終了後、同学年で二次会に行つたのであるが、その席でこの同窓会の時間帯をもう少し遅くできないものかという意見もあった。

ところで、我々48年卒P4会では、これまでも同窓会を行ってきた。同窓会は、時代をタイムスリップさせ、学友との友情を思い起こさせるとともに、これからの人生を語り合う良い場でもある。この同窓会を一つの契機にしてお互いのこれからの人生を豊かに生きていくことに繋げられたい。

今回の同窓会のお蔭で、来年開催するP4会の日程も決まった。全体で集う次回及びP4会を楽しみにしたい。

平成25年度 教育学部同窓会一般会計決算報告書

1. 収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 決算額, 増減額, 備考. Rows include 前年度繰越費, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 決算額, 増減額, 備考. Rows include 事務経費, 会議費, 事業費, 会計区分変更, 予備費, 合計, 次年度繰越.

平成26年度 教育学部同窓会予算

(単位:円)

1. 一般会計

(収入の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 前年度繰越, 会費, 雑収入, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 事務経費, 会議費, 事業費, 同窓会連合会経費, 会計区分変更, 予備費, 合計.

2. 特別会計

(1) 記念事業積立金

(収入の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 前年度繰越, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 記念事業積立金, 計.

(2) 大会開催等準備基金

(収入の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 前年度繰越, 一般会計からの戻入, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 大会開催準備基金, 沿革之碑関係経費, 一般会計へ移し替え, 計.

(3) 国際交流基金

(収入の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 前年度繰越, 一般会計からの組み替え, 合計.

(支出の部)

Table with 5 columns: 区分, 平成25年度決算額, 予算額, 備考. Rows include 国際交流基金, 計.

会費納入について

会費納入については、学生の場合は入学時に、すでに納入しているが、教育学部既卒者の場合は随時納入することになっている。同窓会は平成10年に設立され、会費は終身会費として1万円となっている。

顧問 名誉会長 副会長 理事 会長

- 平川林鮫橋佐有上東文松石池松土武中坂島内之澤野 島野藤馬村 城永神迫元田隈山尾田 光一賢寛奈敦暢睦寛テ郁正静兼 右俊 一々 徳彌郎行代子洋郎治子男明男俊理晃尚隆秀

鹿児島大学教育学部同窓会役員

- 西南藤植松新今南福川後宮伊前西水有永堂種子島村清主林岡村藤下田田浦村田園貞仁哲秀健俊孝君千宣美ゆ憲弘芳己兵郎一一一孝子子夫洋子子修孝郎子

- 支事 監幹 (熊肝曾始伊出川日川掛鹿児世話務事) 羽川塚下内竹向早辰樋木野柳江北假寺下福末生田本野倉宮原川野園山間山口原園床原満吉昌 孝隆昭鐵 良吉正照 ひ重英 昭勝美博靖弘稔行雄夫郎翼行郎郎夫み遠雄稔彦也保隆宏

学部及び連合会の関連業務

- 平成27年 3月下旬 同窓会連合会 第3回役員会 同窓会連合会 第3回幹事会 同窓会連合会 第3回役員会 平成26年 4月2日(水) 新入学生へ会長挨拶 教育学部新入学生オリエンテーション 4月12日(土) 同窓会連合会 総会 5月上旬(中旬) 同窓会連合会 第1回幹事会 8月 同窓会連合会 9学部同窓会長連絡会 8月下旬 同窓会連合会 第1回役員会 10月(11月) 同窓会連合会 第2回幹事会 11月中旬 同窓会連合会 第2回幹事会 大学祭の学部企画事業参画 祭典経費 支援 同窓会連合会 第2回役員会 同窓会連合会 第3回幹事会 同窓会連合会 第3回役員会



# 目標・夢の実現に向き合う若者

## 「鹿児島県の教育を語る会」でグループ協議

第12回「鹿児島県の教育を語る会」は、平成25年11月28日(木)午後4時から教育学部管理棟・理系研究棟の大会議室で開催され、教育学部の教職員・学生・卒業生約100人が参加した。同窓会員でもあるアイエヌ通訳システムズ代表取締役山崎美智子氏の基調講演やテーマ「人間として大切なこと」目標・夢を実現するために「をもとに8グループで協議が行われた。学生とOBが率直に語り合い、充実した会となった。

### 基調講演

講演は、「鹿児島だからできる私の挑戦」と題して、通訳という仕事で挑戦されていることを具体的に話された。

鹿児島県の文化・歴史・地理・一般的な常識等に熟知すること、事前の打ち合わせ、相手との信頼関係の樹立など、良い仕事をするためにはそれなりの準備が必要である。それは大変なことであるが、やるしかなく苦勞しながらもやってみることが大事で、「泣きよかひつ跳べ」と結ばれた。

グループ協議は8グループに分かれて、テーマの「目標・夢を実現するため」について話し合われた。それぞれのグループでは専修学科代表の2人が提言をし、それを基に卒業生の司会で協議が進められた。

### グループ協議

各グループの協議内容の一部を紹介する。( )は提言者と参加者の専修学科名。

【1組】(国語・社会) ① 目標・夢を実現するためには、計画性と継続性が必要であることを教員採用試験不合格、サークル活動の体験から痛感した。具体的な計画を立て努力を継続したい。 ② 学生になって一人で生活してみても多くの人に支えられていることを実感した。今までの出会ったすべての人に感謝し、これから出会うであろうすべての人々に謙虚な姿勢で接する人間でありたい。

【2組】(数学・理科) ① 目標・夢を実現するためには人間として大切なことは、当たり前のことを当たり前にすること、さらに当たり前のことを適当にするのではなく徹底することだと稲盛和夫著「働き方」から学んだ。 ② 当たり前前ということの分析が必要である。企業家の考え、現実の社会の状況から教育という面とどのようにすり合わせていくか考えていかなければならない。

【3組】(音楽・美術) ① 自信はなくてもとにかく「やってみる」ことである。そのためには行動力だけでなく、忍耐・継続する努力・勇気も必要である。さらに感謝の心も大切にしたい。 ② 明確で具体的な目標・夢を持つことが大切で、それが知識技能の習得、イベントへの参加、最新の情報収集、社会貢献活動などの具体的な行動となる。

【4組】(技術・家政) ① 与えられた仕事は積極的に引き受け、チャンスを与えてくれた人に感謝の気持ちを忘れないことが大事である。 ② 目標や夢を持つことが大切であり、誰にも負けない強い情熱、固い信念を持つことが生きる力の根源である。自分に負けない心があれば、夢は近づいてくる。

【5組】(保健体育・健康教育) ① 「克己心」は、最終的な夢や目標を達成するための必要不可欠な能力である。きつなく辛い状況の時逃避することなく強い心でやり通した自らの体験を大切にしたい。 ② 人の役に立つ職に就くという同じ目標を持つ仲間と共に努力したい。そのためには将来を左右する学生生活であることを自覚し、周りの環境や仲間へ感謝して努力を重ねたい。

【6組】(英語・国際理解教育) ① 日本語の美しさや英語のおもしろさを鹿児島の子どもに伝えたい。また、コミュニケーション能力を身に付けさせたい。そのために海外に出て勉強もしたい。 ② 自分で選択して何かをやること、自分のやりたいことを着実に模索している姿に感動した。がんばれ!(講師)

【7組】(教育学・心理学) ① 教育実習で言葉の大切さや接し方など大変刺激を受け、教師という夢への思いも更に熱くなった。体験や出会いを通して自己を見つめ直し変容していきたい。 ② 周囲との信頼関係を築き、前向きな姿勢と同時に立ち止まり自分を省みつつ、挑戦していく行動力が夢の実現の原動力となる。

【8組】(特別支援教育・地域社会教育) ① 今の生活の範囲から一歩外に出て、多くの人と「繋がる」ことである。必ず自分の可能性を伸ばせるだろう。目標や夢に向かって何回も繰り返す(挑戦する)ことが大切である。 ② 大学時代はまだ悩みの真つ只中にあるので、まずは今しかできない様々なことを率先して存分に経験する。その中から人との繋がりがやき方を学び、夢の実現につなげたい。

【9組】(特別支援教育・地域社会教育) ① 今の生活の範囲から一歩外に出て、多くの人と「繋がる」ことである。必ず自分の可能性を伸ばせるだろう。目標や夢に向かって何回も繰り返す(挑戦する)ことが大切である。 ② 大学時代はまだ悩みの真つ只中にあるので、まずは今しかできない様々なことを率先して存分に経験する。その中から人との繋がりがやき方を学び、夢の実現につなげたい。

【10組】(特別支援教育・地域社会教育) ① 今の生活の範囲から一歩外に出て、多くの人と「繋がる」ことである。必ず自分の可能性を伸ばせるだろう。目標や夢に向かって何回も繰り返す(挑戦する)ことが大切である。 ② 大学時代はまだ悩みの真つ只中にあるので、まずは今しかできない様々なことを率先して存分に経験する。その中から人との繋がりがやき方を学び、夢の実現につなげたい。

【11組】(特別支援教育・地域社会教育) ① 今の生活の範囲から一歩外に出て、多くの人と「繋がる」ことである。必ず自分の可能性を伸ばせるだろう。目標や夢に向かって何回も繰り返す(挑戦する)ことが大切である。 ② 大学時代はまだ悩みの真つ只中にあるので、まずは今しかできない様々なことを率先して存分に経験する。その中から人との繋がりがやき方を学び、夢の実現につなげたい。

## 将来の夢

教育学部英語専修1年 西村 拓朗



私は、中学1年生の頃から「教員」になるという夢があります。この夢を持つきっかけとなったのは、中学1年の時に出会った一人の先生でした。この先生は7年間かけて教員になられており、非常に努力された方でした。熱い思いで生徒と向き合う先生の姿勢に心を打たれ、私も教員という夢を持つよう

になりました。この先生は中1は副担任、中2、3の頃は担任と結局中学校3年間お世話になりました。ここには書くことが出来ないほどの大切なことをたくさん学びました。そして私は中学校を卒業し高校に入学して、私にとつてすばらしい出会いがありました。それは高校生活の3年間、私の数学を担当してくださった先生と、教科は異なるけど同じ教員という夢を持つ友人でした。数学の教科担任の先生は数学の苦手な私に毎回のように「苦手でもやるかやらないかはお前次第。あきらめたら終わり。」と言って決めました。また、入学してから実感した教育学部の魅力は、少人数で専修ごとに分かっているため、縦と横の繋がりが深い所です。学校生活、アルバイト、進路など様々なことにアドバイスをしてくださる先輩方と、質問ができる環境、そしてそれぞれの専修に合った研究の場は教育学部ならではの魅力です。 将来は、やはり福祉の分野

## 教育学部での充実した毎日

生涯教育総合過程 地域社会専修1年 安山 香穂



平成26年4月、大学合格のためベストを尽くした高校生活を終え、鹿児島大学での新たな生活が始まりました。私が教育学部の地域社会教育専修を志望したのは、元担任からのすすめがきっかけです。元々、福祉の分野に関心があり、高校3年当初は社会福祉専攻の課程がある大学を志望していました。しかし地域社会教育専修では、1年時から参加できるボランティア活動を始め、地域活性化に向けた活動や研究が行われているとのことでした。社会や地域の人々との関わりを通じて、地元貢献できる実践力を身に付けられるのではないかと考え、志望を

しました。高校生活を終え、鹿児島大学での新たな生活が始まりました。私が教育学部の地域社会教育専修を志望したのは、元担任からのすすめがきっかけです。元々、福祉の分野に関心があり、高校3年当初は社会福祉専攻の課程がある大学を志望していました。しかし地域社会教育専修では、1年時から参加できるボランティア活動を始め、地域活性化に向けた活動や研究が行われているとのことでした。社会や地域の人々との関わりを通じて、地元貢献できる実践力を身に付けられるのではないかと考え、志望を

になりました。この先生は中1は副担任、中2、3の頃は担任と結局中学校3年間お世話になりました。ここには書くことが出来ないほどの大切なことをたくさん学びました。そして私は中学校を卒業し高校に入学して、私にとつてすばらしい出会いがありました。それは高校生活の3年間、私の数学を担当してくださった先生と、教科は異なるけど同じ教員という夢を持つ友人でした。数学の教科担任の先生は数学の苦手な私に毎回のように「苦手でもやるかやらないかはお前次第。あきらめたら終わり。」と言って決めました。また、入学してから実感した教育学部の魅力は、少人数で専修ごとに分かっているため、縦と横の繋がりが深い所です。学校生活、アルバイト、進路など様々なことにアドバイスをしてくださる先輩方と、質問ができる環境、そしてそれぞれの専修に合った研究の場は教育学部ならではの魅力です。 将来は、やはり福祉の分野

になりました。高校生活はこの言葉信じて前向きに頑張った結果、あきらめない心の強さの重要さに気付かされました。そして同じ夢を持つ友人。受験勉強は苦しかったけれど、その友人と励まし合い努力し続けた日々は確実に私たちの夢を叶えるための一つの糧になっています。大学は違ってもその友人も頑張っていること信じて私も頑張ります。 この私にとつてすばらしい出会いに感謝し、これからの大学生活も高校の時のあきらめない精神を持って努力していきます。

になりました。この先生は中1は副担任、中2、3の頃は担任と結局中学校3年間お世話になりました。ここには書くことが出来ないほどの大切なことをたくさん学びました。そして私は中学校を卒業し高校に入学して、私にとつてすばらしい出会いがありました。それは高校生活の3年間、私の数学を担当してくださった先生と、教科は異なるけど同じ教員という夢を持つ友人でした。数学の教科担任の先生は数学の苦手な私に毎回のように「苦手でもやるかやらないかはお前次第。あきらめたら終わり。」と言って決めました。また、入学してから実感した教育学部の魅力は、少人数で専修ごとに分かっているため、縦と横の繋がりが深い所です。学校生活、アルバイト、進路など様々なことにアドバイスをしてくださる先輩方と、質問ができる環境、そしてそれぞれの専修に合った研究の場は教育学部ならではの魅力です。 将来は、やはり福祉の分野

になりました。高校生活はこの言葉信じて前向きに頑張った結果、あきらめない心の強さの重要さに気付かされました。そして同じ夢を持つ友人。受験勉強は苦しかったけれど、その友人と励まし合い努力し続けた日々は確実に私たちの夢を叶えるための一つの糧になっています。大学は違ってもその友人も頑張っていること信じて私も頑張ります。 この私にとつてすばらしい出会いに感謝し、これからの大学生活も高校の時のあきらめない精神を持って努力していきます。

になりました。この先生は中1は副担任、中2、3の頃は担任と結局中学校3年間お世話になりました。ここには書くことが出来ないほどの大切なことをたくさん学びました。そして私は中学校を卒業し高校に入学して、私にとつてすばらしい出会いがありました。それは高校生活の3年間、私の数学を担当してくださった先生と、教科は異なるけど同じ教員という夢を持つ友人でした。数学の教科担任の先生は数学の苦手な私に毎回のように「苦手でもやるかやらないかはお前次第。あきらめたら終わり。」と言って決めました。また、入学してから実感した教育学部の魅力は、少人数で専修ごとに分かっているため、縦と横の繋がりが深い所です。学校生活、アルバイト、進路など様々なことにアドバイスをしてくださる先輩方と、質問ができる環境、そしてそれぞれの専修に合った研究の場は教育学部ならではの魅力です。 将来は、やはり福祉の分野

になりました。高校生活はこの言葉信じて前向きに頑張った結果、あきらめない心の強さの重要さに気付かされました。そして同じ夢を持つ友人。受験勉強は苦しかったけれど、その友人と励まし合い努力し続けた日々は確実に私たちの夢を叶えるための一つの糧になっています。大学は違ってもその友人も頑張っていること信じて私も頑張ります。 この私にとつてすばらしい出会いに感謝し、これからの大学生活も高校の時のあきらめない精神を持って努力していきます。

になりました。この先生は中1は副担任、中2、3の頃は担任と結局中学校3年間お世話になりました。ここには書くことが出来ないほどの大切なことをたくさん学びました。そして私は中学校を卒業し高校に入学して、私にとつてすばらしい出会いがありました。それは高校生活の3年間、私の数学を担当してくださった先生と、教科は異なるけど同じ教員という夢を持つ友人でした。数学の教科担任の先生は数学の苦手な私に毎回のように「苦手でもやるかやらないかはお前次第。あきらめたら終わり。」と言って決めました。また、入学してから実感した教育学部の魅力は、少人数で専修ごとに分かっているため、縦と横の繋がりが深い所です。学校生活、アルバイト、進路など様々なことにアドバイスをしてくださる先輩方と、質問ができる環境、そしてそれぞれの専修に合った研究の場は教育学部ならではの魅力です。 将来は、やはり福祉の分野

になりました。高校生活はこの言葉信じて前向きに頑張った結果、あきらめない心の強さの重要さに気付かされました。そして同じ夢を持つ友人。受験勉強は苦しかったけれど、その友人と励まし合い努力し続けた日々は確実に私たちの夢を叶えるための一つの糧になっています。大学は違ってもその友人も頑張っていること信じて私も頑張ります。 この私にとつてすばらしい出会いに感謝し、これからの大学生活も高校の時のあきらめない精神を持って努力していきます。

## 編集後記

今年も自然災害が相次ぐ中で、特に御嶽山の大噴火には脅威を覚えました。その教訓を踏まえ、鹿児島県のシンボル桜島の大噴火を想定して万全の備えをしなければとの思いを、改めて強くしています。

今年も自然災害が相次ぐ中で、特に御嶽山の大噴火には脅威を覚えました。その教訓を踏まえ、鹿児島県のシンボル桜島の大噴火を想定して万全の備えをしなければとの思いを、改めて強くしています。

今年も自然災害が相次ぐ中で、特に御嶽山の大噴火には脅威を覚えました。その教訓を踏まえ、鹿児島県のシンボル桜島の大噴火を想定して万全の備えをしなければとの思いを、改めて強くしています。

今年も自然災害が相次ぐ中で、特に御嶽山の大噴火には脅威を覚えました。その教訓を踏まえ、鹿児島県のシンボル桜島の大噴火を想定して万全の備えをしなければとの思いを、改めて強くしています。